

平成二年

関東大学テニスリーグ結果

三部降格

第一戦

四月二日

於 立教大コート

本学1 D112 8 青学大 S016

四月二日、僕達四年にとって最後のリーグ戦の初戦が青山学院大学と行われた。本学にとって青学は相格上であり、苦戦をしいられるのは覚悟していたが、リーグ戦らしい試合を見せられたのが、ダブルス・ナンパー2の柳内・小田が三時間余りの試合をものにした位であった。私はこれからの選手達の奮起を期待し、私も精一杯応援をした。

が、ダブルスは優勢なので2勝以上を挙げようと、チーム一丸となって戦った。しかし予想とは逆に、筑波が優利に試合を進めていった。まずナンパー1、1が負けてしまい、ナンパー3の増田、齊藤組もファイナルの接戦の末負けてしまい、ダブルスの結果は0対3でシングルスへと折り返していった。

頑張ったものの、結局勝ったのは、柳内・小田のダブルスと小田のシングルスとの二勝だけで、二対七で負けてしまった。私はシングルスナンパー4で試合に出たが、東海大の新生に3-16、3-6で負けてしまった。この試合で、リーグ戦で一勝することとは本当に大変なのだということを感じ、自分の弱さを感じた。

二年 金子 誠



第二戦

四月六日

於 大コート

本学2 D112 7 東海大 S115

午後、シングルスでは青学と立教の差が、スコアに明らかに出てしまった。ナンパー1の柳内は本当に素晴らしい試合をしてくれたものの、ナンパー2から6まで、全てどちらかのセットに0をつけられ、特にナンパー14から6は、6-0・6-0、6-0・6-1、6-1・6-1と、第一戦にひどい仕打ちをくらった。リーグ戦まで本当に一生懸命練習してきたのに……

ナンパー1の柳内さんの試合だけになってしまった。0対9の最悪の状態にならない様に、応援で柳内さんを盛り上げた。柳内さんも意地を見せてチーム唯一の一勝を挙げてくれた。1対8の成績で負けてしまったけれども、ファイナルに入る惜しい試合をしているだけに、次は期待が持てそうな筑波戦であっと思う。

足立 充生

第三戦

四月七日

於 立教大コート

本学2 D112 7 東海大 S115

第一戦、第二戦とも一対八で完敗して迎えた第三戦。相手は東海大である。これはどうしても勝たなくてはならない試合である。去年のリーグ戦では東海大に感動的な逆転劇で勝利をおさめた本学。今年も何が何でも勝たなくてはならない。今年の大学の戦力は、資格者の人数は去年と同じであるが、ダブルスナンパー3と、シングルスナンパー4・5・6が力不足であり、部員全員が全力を尽くして

第四戦

四月十日

於 法政大コート

本学0 D013 9 法政大 S016

前の三試合では不本意な成績に終わったため、今回の法政大との試合に、選手・応援・審判・ポラーと、我が立教大学庭球部全員が一丸となつてのぞんだ。しかし法政大学のメンバーは一人を除いて全員が資格者であり、各個人が試合慣れしていたのに対し、本学のメンバーは、要所所で素晴らしいプレーを見せ、気合いで実力の差を

最終戦

四月十四日

於 立教大コート

本学1 D112 8 日体大 S016

年間の練習を思い出すと、この大敗が悔やしくてならない。二年 大須賀 将徳

入替戦

四月 日

於 大コート

本学4 D112 5 東京大 S313

リーグ戦は、0勝6負に終わってしまい、残念ながら順位は、最下位になってしまいました。そして4月 日、ついで三部一位の東京大学との入れ替え戦が行われました。当然ながら両校共に、二部の座をかけているわけなので試合前の練習から、リーグ戦とは一味ちがった雰囲気、ただよっていました。

「一年を振り返って」

主将 柳内 崇

昨年の五月に幹部交替が行われ、主将としてやってきて一年が経過し、後輩に代を譲りました。一年間、個人・団体を含めた数々の試合をこなして、練習に励んで参りました。全てリーグ戦を目標に、結果は最悪の三部降格。思えば高山主将の下で、二部復帰を達成し全員で喜びを噛み締め涙を流したのが三年前、そして先日リーグ戦において唇を噛み締め涙を流した。結果的に、私は立大庭球部をふり出した状態に戻ってしまった。しかしこの一年間、部員全員で一生懸命やることが事実であり、主将として、ナンパー1として一年間様々なことを部員に言っ



大日本法令印刷株式会社

本社工場 長野市中御所町3-6-25 TEL(0262)28-1113(代) 支社工場 東京都港区西新橋3-6-10 TEL(03)434-8641(代)

東海道メガロポリスをネットワークする… MIDグループ



※全コート夜間照明あり：ロッカー室、シャワー室完備

でした。その所の自分の弱さに悔いが残ります。本当に皆頑張ってくれました。長島茂雄氏の言葉を覚えて表現しますと、私は「立大庭球部は永遠に不滅です。」と信じております。永遠に続く限り必ずや、「王座優勝」を手に入れることが出来ると思っております。

最後になりましたが、監督として私を引っ張って下さった倉光さんを始め、OB諸兄先輩の方、最悪の結果しか出すことが出来ず、期待を裏切ってしまった、誠に申し訳ありません。先輩方の期待は私にとって温かく励みになりました。一年間、有難う御座いました。また今年も新主将・増田を始め後輩を盛り立てて下さる様お願い致します。そして、学連として四年間裏方に徹して頑張ってくれた多田を始め、副将の小田、主務の平井、河村、戸田、丹司と後輩の皆様、ありがとうございます。

いつの日かの「王座優勝」を願って。

リーグ戦

伊藤 久幸先輩 (昭和五十七年卒)

リーグ戦、この短かい言葉の中に、なんと深い意味が秘められているのであろうか。なんと多くのOBの、汗が、涙が、感動が、そして熱い思いが込められているのであろうか。

私が一年生の時のリーグ戦は二部の三位。あと一步で一部との入れ替え戦に出られた。試合の後、四年生たちが流した涙。男泣きしている姿を見たあの時ほど、私は感動したことはない。私が四年生の時は、二部二位で、一部との入れ替え戦で早稲田と対戦した。結果は四対五。あと一ポイントだった。私のシグナルはファーストアップの逆転負けだった。自分の情けなさ、弱さを嫌という程味わった。現役時代からずっと、私のリーグ戦に対する思いは熱いままである。

今年のリーグ戦は、二部で全敗し、三部の入れ替え戦で、東大に四対五で敗れた。私は青学戦と東海戦を見に行ったが、両

方とも大差をつけられ負けた。主将の柳内を中心に、頑張ってきた姿を知っているだけに、三部降格という結果は残念でならない。

ここで我々OBが最も危惧するのは、三部のテニスに染まらないか、ということだ。我がテニスは昔、常に一部の上位だったという。そして私達の頃は、なんとなく二部が定着してしまっていた。それと同じように、これからの年月の中で、三部の上位で落ちついていられるような気運が芽生えてはならないのである。

テニスは今、大変重要な時期にさしかかっていると思う。この危機は、現役諸君の努力でしか乗り切ることができない。OBはただ見守ることしかできないのだから……。

最後に、四年生へ心から拍手を送りたい。いい結果はでなかったが、君達は精一杯頑張った。これからはOBとして、現役と一緒にリーグ戦を戦っていくのではない。

本年に向けて

新主将 増田哲也

本年度主将を務めさせて頂きます社会学部産業関係学科三年増田哲也と申します。宜しく御願致します。

さて、先に行なわれましたリーグ戦では残念ながら三部に降格してしまいましたが、その原因を早急に明確にし具体的な対策を練っていかねければなりません。そして来年は、必ず二部復帰を果たさなければ、と思っております。

去る五月二十四日に現役部員一同でミーティングを行ない、アンケートなども取りながら、各々が考えている事を明らかにしそれに對しどうすればよいのかなどを中心話し合いました。雨の日なども使いながらミーティングを増やし個々の問題点を克服しながら全体のレベルアップを図っていきたく思います。ミーティングで話した内容は次の通りです。

一、「今まで通りにやっていたら勝てない」という事。

二、「あいさつ及びコート整備」について。

三、「欠点に対して自分は何をすればいいのかわからないか」について。

四、「練習方法」について。

五、その他(細かい規則など)です。

まず、「一」として今まで通りでは勝てないという事です。これは、選手一人一人の技術のレベルも以前に比べ低下しており、セレクション制度がほとんどの学校で行なわれている中、それが無い我が校ではかなりきついが現状です。その中で勝つためには、やはり練習しかありません。人と同じだけやっていると勝てないのです。しかし、ただだらだらやるのではなく、いかに短かい時間で集中してやるかが問題です。沢松先輩が練習にいらした際によく言われる「心技体」がまさしくあてはまると思います。始めに「心」があつて「技」も「体」も出来るのです。この三つが揃って初めて試合に勝てるようになるのだと思います。

二として「挨拶及びコート整備」についてですが、やはり練習をする以前の段階として、大切な事だと思えます。挨拶については、相手にわかるようにはっきりと、気持ちよく、こめて、が注意です。次にコート整備についてですが、コートは勿論まわりの草やゴミ、又小屋の掃除をするという事です。これらの事は、社会に出てから大変役立つものだと思ひ、やるからには徹底してやろうという事に決定しました。

三では、アンケートと個人面接を行なった結果、自分の得意なショット、或いは例えば、勉強とテニスの両立が困難であるとか、精神的に弱いなど欠点はほとんど全員が理解しているのにもかかわらず、それに對して何をすればいいのかわからないか、と考えているという事が明らかにになりました。これではうまくならないわけがありません。先に述べた「心」が欠けているという状態のようなので、

始めて練習に入る訳ですが、様々な問題を考慮して練習内容を考えた結果、今までの練習のように半面で打つなり、一面を使った2-1ストロークや試合形式等、実践的な練習及び緊張感を持つ練習(例えばスマッシュを何本か連続で入れる。出来るまでやる)が一番いいのではないかと思います。しかし、ここで問題なのが球出し出来る者がいないという事です。球出し一つで上達の頻度が変わってくると思ひます。もう一つは、練習試合を増やすという事です。予定としては毎日必ず簡単な試合を行ない、又他校の選手と合同練習したり試合をしたりするつもりです。中だけでやるよりは色々な人と接触した方がいい事だと思ひます。その他、雨の日等、テニスが出来ない時に、新座のトレーニングルームでのトレーニングや、ビデオをみたり、ミーティングをこまめに行ないコミュニケーションをはかる等、無駄な時間を出来るだけ省きたいと思ひます。以上が、今年一年のテニスの活動予定です。

その他の問題として、最近よく感じるのが学校側の体育会に對する理解が薄いのではないかと、この事について、今年、授業に出席しなければ単位が取れないという理学部、法学部の部員が多く、そのため平日富士見コートで練習するものが、七、八人前後という状態です。そのため、池袋にある新学院コート、理学部コートを使っている時間を使わせて頂きたいのですが、例えば、授業時間中では、コートが空いていても使わせてもらえず、又、理学部コートも、平日はサークルが使用しているようです。私達は、自分のために体育会に所属していますが、「立教大学」という看板を背負い、ある意味で学校側はどのようになっているとも言えるのではないのでしょうか。学校側はどのようか考えているのかわかりませんが、テニスは富士見があるからそこでやればよいという感じが、これが少し残念な事です。

現役一同は、自分に厳しく他人にも厳しくより一層の努力をしてもらいたいと思ひます。

倉光監督をはじめOBの方々は、より一層の御理解を頂ければ幸いです。我々現役一同は、一丸となって来年のリーグ戦に向けて頑張りますので、これからは、御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

個性を伸ばす、伸ばせる体制を!

鈴木 宏先輩 (昭和五十二年卒)

卒業後、気になりながらも忙しさから足が遠ざかる大学テニス部。今年こそはと思いつつ十数年が経ってしまいました。職業柄後輩を指導するには良い環境にありながらついつい自己都合に追われてしまひ先輩、後輩に申し訳ないと思ひている次第であります。昨年度の終わりに今年度リーグ戦にかければ比較的練習や試合を見る事が出来たので原稿を依頼されたようです。そこで一年を振り返り、我が後輩達に對する感想を述べさせてもらいます。

自分が現役だった時代のテニスとは少々流行が違いますので一概に言うことはできませんが、第一に練習時と実践時の隔たりが少し大きいように感じられました。第二に皆が同じ様なスタイルのテニスをしています。第三に練習時間の問題を差し引いたとしても、皆が技量が違ふのに同様の練習内容しか与えられないこと。このような三つの要素から、練習時は全員が各自一生懸命にベストを尽くしていると思ひます。皆がナンバー1の柳内君のようにスピードも有り、テクニクも豊富でオーソドックスなプレーをそつなくこなしていると言えましよう。ところが実践の時は、誠に残念ですがその実力の半分も発揮できない場合が多いように思ひます。このような点に關しては見學時に常にアドバイスをするように心がけていますが、なかなか浸透したい問題のように思ひます。皆が同じ練習時間で同じ内容を、殆どのボールをスピンを

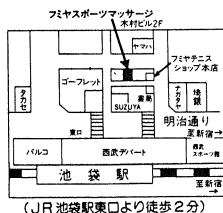
掛けヒットする中から、自分の個性を生かしたテニスを創造していくには本人の独創性と相当な努力、そして定期的的確な忠告をする指導者が必要と思ひます。自分も含めてですが、気まぐれに練習に顔を出し、気が付いた点を言って帰るような形ではなく、せつかく総監督、監督、助監督、コーチという体制をとっているならば、年度始めに部員の練習を見て、どの様な方向で進みたいのかカウンスリングし、指導者を含め検討し方向付けを行って練習に生かすような形がとれたら良いと思ひます。自分はこの数年、練習やリーグ戦を見学するときに感じてくることは、体格、体力、環境、考え方の違うテニスの好きな青年達の集まり(テニス部という集団)が、何かの一つの目標だけに向かって、同じものの方で進んでいっているように感じます。リーグ戦だけが目標のテニスの練習ではなく、より自分にあつた個性的なテニス、そしてそれが楽しいと思ひえるようなテニスが出来ると思ひます。そしてその個性を伸ばすことが出来るような練習を個人が自覚を持ち行い、OBが金銭的な援助のみでなく長期的な方策を持って支援することが大切だと思ひます。本年度、残念ながら三部に落ちましたが、新体制でスタートしたところで、自分もスケジュール帳に真先に「大学練習」と書き込み始めました。春期関東学生が終わり、インカレが始まり、義務参加の試合もあり……。皆さん、後輩達の活躍が楽しみですね。



フミカスポーツ・マッサージ治療院

- 各種スポーツ障害(テニスエルボー他)に
- お仕事のお疲れに
- 肩こり、五十肩、腰痛、冷え症、頭重、眼の疲労などに

《池袋本院》

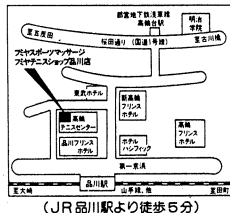


営業時間: 9:00~20:00
(予約制)
休診日: 日・祝祭日

☎971-3079

倉光哲プロの専任トレーナーがテニスエルボーや筋肉疲労などの各種スポーツ障害をとりぞき回復させます。ぜひ一度ご来院下さい。

《高輪分院》



営業時間: 11:00~20:00
(予約制)

☎442-7171 内5669
港区高輪4-10-30
品川プリンスホテル高輪テニスセンター内
(JR品川駅より徒歩5分)

情報と文化の新しい流れを
創りつづけて86年

第一法規出版株式会社

本社 〒107 東京都港区南青山2-11-17
TEL.(03)404-2251(代)

支社 札幌/仙台/長野/名古屋/大阪/広島/高松/福岡

営業所 沖縄

平成元年度

定期戦結果

同立定期戦

九月二十三日

同志社コート

D O I 3
S I I 5 8同志社大

同立戦をふりかえって

四年 丹司 均

毎年恒例の同立定期戦にあり、試合の前の緊張、そして友達の再会を胸に庭球部一同は京都に向かう事になった。同志社大学に到着し、その日は各学年に別れ一日中様々な話で思い出を作ることができた。しかし我々は勝つためにやっていたのだ。その日は雨で、明日の試合が気になったが、当日は雨もあがり無事試合をすることができた。我々は再び緊張感をもって自分達の仕事に力を注いだ。そして各々が全力を尽くしたが結果は立教が負けてしまった。しかし、この同志社との定期戦は試合の勝負だけが目的でなくテニスというスポーツを通しての仲間のふれ合いを持つということがあると思う。定期戦は、お互いが一年間の成果を比べてその結果を新たな励み、目標にして、自分自身を鍛えるといった事につながると思う。このような行事を、OBになってからもずっと何らな形で関わってきたいと思う。このようなことがこの定期戦の本質であり、同志社と立教との間をこれからも近づけてくれるであろうと実感した。

昭和四十一年

以降の

同立戦戦歴

41	同志社
42	立教
43	立教
44	立教
45	立教
46	立教
47	立教
48	立教
49	立教
50	同志社
51	同志社
52	同志社
53	同志社
54	同志社
55	同志社
56	同志社
57	立教
58	中止
59	同志社
60	中止
61	同志社
62	同志社
63	同志社
平成元	同志社

明立定期戦

十一月二十六日
於 八幡山コート

D O I 3
S I I 5 8明大

明立戦をふりかえって

一年 片岡 聡

昨年十一月二十六日、毎年恒例となっている明立定期戦が明治大学八幡山コートで行われた。結果は、ダブルスコア三、シングルスコア五、計一対八で明治大学の勝利だった。明治大学には、やはり一部校としての貫禄があり、我々はチャレンジャーとして一人一人が全力を尽くしたのだが、一部と二部の壁を感じ、我々の力不足を痛切に感じた。私にとって明立定期戦は初めてであったが、同立定期戦とは一味違った雰囲気があった。それは明治大学の、我々立大に対して、「ポイントも落とさずにはならぬ!!」という意気込みからくるものではないかと思う。我々も、明治の意気込みに負けず、来年こそは勝たなければならぬ。

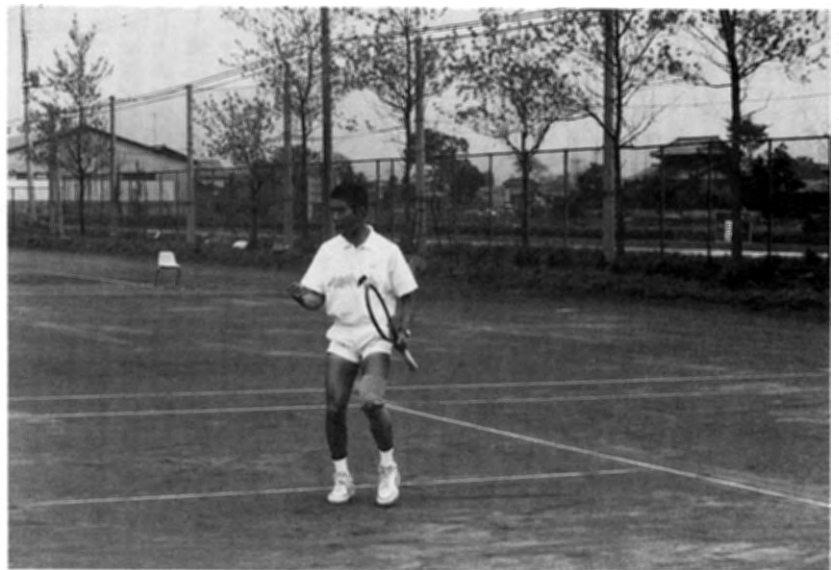
昭和三十一年

以降の

明立戦戦歴

31	立教
32	立教
33	立教
34	立教
35	立教
36	立教
37	立教
38	立教
39	立教
40	立教
41	立教
42	立教
43	立教

44	立教
45	立教
46	立教
47	立教
48	立教
49	立教
50	立教
51	立教
52	立教
53	立教
54	立教
55	立教
56	立教
57	立教
58	立教
59	立教
60	立教
61	立教
62	立教
63	立教
平成元	立教



合同練習会

新副務 保泉 敦

毎年一度、十一月二十三日の勤労感謝の日立教の小学校から大学生までの体育会テニス部員が集まって、練習や試合などをやる合同練習会が昨年も新学院グラウンドで沢山のOBの方々を招き、盛大に行われました。

内容は午前中は大学生やOBの方々が球出しをして、小・中・高生を指導し、これによってお互いに刺激されて少しでも上達が図れたのではないかと気がしました。また午後にはトーナメント方式で、ダブルスの試合を組み、但し小学生は除いたメンバーで行われ、各々が試合の勝ち方、また負けた理由などを自覚するのに役立ったのではないかと感じました。そしてOBの方々の御指導を受け、真に感謝しております。

今年もさらに立教学院のテニス部が親睦を深め、技術向上することができるよう合同練習会であることを期待しています。



創業 122年

上野運輸グループ主要会社

株式会社上野運輸商会

三光石油株式会社

オクサリス・ SHIPPING Inc

東邦海運株式会社

株式会社ワイ・エス・ケー

ウエノ・ストルト・タンカーズ Inc

上野ケミカル運輸株式会社

上野興産株式会社

株式会社ラック・コーポレーション

上野輸送株式会社

伊勢湾防災株式会社

上野ビルメンテナンス株式会社

上野石油倉庫輸送株式会社

上野マリン・サービス株式会社

日本ハウジング株式会社

旭日通産株式会社

中部マリン・サービス株式会社

京都サザンテニスクラブ

旭菱石油株式会社

西部マリン・サービス株式会社

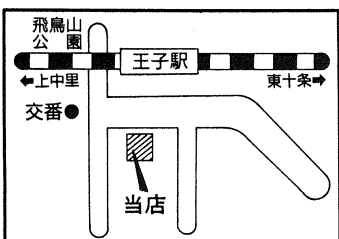
上野システム開発株式会社



アイファッションと難しいメガネの専門店

王子メガネ

〒114 東京都北区王子1-9-1 電話 913-1549



卒業生紹介



山田 昇 (経済) 主将

あたかもベルリンの壁のような偉大な背中の持ち主。時としてそれは恐怖であり、又時として温かいホカロンのような白寄せと思いがらやって参りました。我が主将、山田昇さん。

就職先 N T T

東樹 秀明

(観光) 主務



我が庭球部の長老。OBの〇〇さんに最後まで名前を「トウジ」と間違われながら、マネージャーの仕事を一生涯やってきた「トウジ」さん。「東樹トラック」はテニス部に必要です。戻って来て下さい。

就職先 オリエンタルランド

昆野 敦

(経済) 副将



華麗なるネットプレイ。私は何度となくその姿に酔いしれました。昆野さんと食べた調布のラーメンの味、一生忘れません。真赤なスタートルームも。

就職先 住友銀行

白寄 誠

(経営) 副将



テニス・車・オンナ。何事にも全力でぶつかると白寄さん。怒るとスゴく怖い白寄さん。優しい時は母なる大地のような白寄さん。二十四時間サウナで二人で寝た夜、一生忘れません。

就職先 上野運輸商会

木村 達彦

(経済) 学連

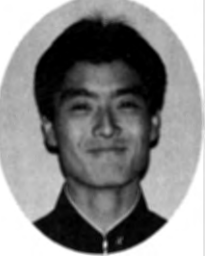


学連として、陰ながらテニス部を支えてきた木村さん。きびしい練習の中にも、明るい雰囲気。木村さんのスカイラインの後部座席でよく居眠りしたことを反省しています。

就職先 FM東京

小島 敏正

(産業関係)



いつもプレリウドから流れてくるのは、H・SONG。練習中の彼はフォアマン。私生活はシークレット。HANTING WORLDのセカンドを小脇にかかえている姿はRICHマン。そんな彼に皆首ったけ。

就職先 日本リース

篠崎 亨史

(経済)



通称「しのちゃん」として、皆に親しまれてきた篠崎さん。「はれはれ」グッズとセンスバリのテニスは微妙にマッチしていたような？何をやって様になる男でした。

就職先 東邦生命

田中 周作

(産業関係)



庭球部の頑張り屋田中さん。練習中、コートではこの人の声が響きわたっていました。この人のテニスに対する厳しい姿勢は私達の良いお手本となりました。あの気合いは一生忘れません。

就職先 大成建設

渡辺 正和

(経営)



史上最強のナンバー6渡辺さん。正確かつ多彩なショットで立教のポイントゲッターとして活躍されました。社会にでも持ち前のしつこさで頑張ってください。

就職先 三井生命

大学 四年間

東樹 秀明先輩 (平成二年卒)

「大学生活の四年間は長いようでとても短いものだ。」これは今年の春、私が卒業式の日実感したことです。特に、庭球部における活動期間は四年生の五月までであり、実質三年間しかないと言えらると思います。しかし、このことは現役時代の私には理解できませんでした。言葉では解るのですが実感できず、卒業式の日やっと気付いたというわけです。



思い起こせば四年前、入部したての私は、受験勉強から開放されたという状況もあり、四年間テニスが毎日できるということに単純に喜びを感じておりました。まさかその四年間が、あつという間に過ぎ去るものであり、楽しい大学生時代に終わりが来るとは思いませんでした。そして先輩方や同期のテニスをみて、いつか自分もあの様に打てるようになるだろうと漠然と思っていたのでした。しかし、そのため毎日の練習をただこなすだけとなってしまい、(体力が)なく、ついていくのが精一杯だったという噂もあります。

気がつくといつの間にか引退していったというわけです。悔いが残らないと言えはウソになりませんが……。そこで先輩に私と同じ様な誤りを犯して欲しくない、(本人は誤ちと思っていないし、良い経験だと思ってる。ここでは一応謙遜して) 幾か述べたいと思います。まず、「四年あると思うな、今しかない！」一生の内、今程テニスに打ち込むことが出来る時はきつくないと思う。今を大切に、今日を大切にこそ明日がある。

「できる限り、テニス以外のスポーツを見る、経験しろ。」これは最初のものと反する様ですが、他のスポーツを経験することにより、視野を広く持つことができ、そこからテニスに应用させることができる、何かをつかむことができると思うからです。スポーツの基本はきつと共通であると思うし、実際私自身、引退してから、もっとこうしたら勝つたのに、とか、もっとこうすれば良かったなど現役時代に理解できなかったことが、よく解った気がするので。しかし、あくまでも本業のテニスに差しつかえないように。最後に「肩の力を抜いて」これは何もテニスの時に肩の力を抜いてというのではない。確かにテニスを人生の第一に置いているのだが、負けたからと言って命まで取られるわけではない。勝ちたいと思いついて自分から自分を追い込んでいませんか。もっと気楽にやってみたら良い結果が得られるかも……。私の様な者がアドバースなどおがましい様で、大先輩の方を前に恐縮ですが、自分の限られた経験から以上のことを述べさせてもらいました。こう書くのが四年間悔やみ放しの様ですが、素晴らしい先輩方に恵まれ、可愛い後輩達を得、何よりも一生付き合える同期の仲間と出会えたことは何にも替え難い私の財産だと思ひ、とても素敵な四年間を送ることができたと思ひます。ですから、後輩諸君も、立教大学体育会庭球部の生活を是非、最後まで全うして、素晴らしい仲間をつくってください。(これが一番言いたかった。)



ディナーBAR "椿" 池袋西口 (ときわ通り) 沿い

にオープン!!

落ちつきのある本格派BARコーナーと予約制のステーキのディナールームをもうけ食事とお酒がゆっくり楽しめます。ご家族でのお食事、会社での会合等貸し切り20名様までご利用下さい。

営業時間：PM5:00～AM2:00
日曜・祭日定休

豊島区池袋2-41-2 葉山ビル6F
☎ 590-3050 54年卒 秋元英晴

